

セグメント別営業概況

原動機部門

エネルギー・
環境機械・設備
システム

主力事業：火力発電(天然ガス・石炭)、原子力発電、再生可能エネルギーなど

基本戦略

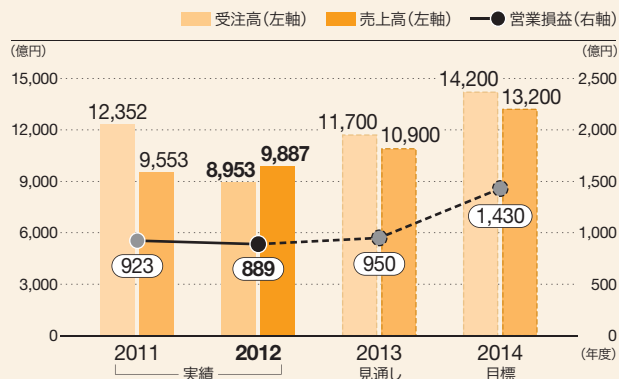
原動機事業

- 海外ネットワーク整備による競争力を強化
- 市場環境を捉えた事業展開
- 新事業・新分野への進出

原子力事業

- 新安全技術の確立により国内事業を推進
- 東京電力(株)福島第一原子力発電所、将来の廃止措置等への取り組みを強化
- 選択と集中、アライアンスで海外事業の展開を加速

今後の見通しと目標



2012年度の概況と2013年度の見通し

アジア地域での受注競争が激化するなか、タイでガスタービン、ベトナムや国内で石炭焼き火力発電プラントを受注したものの、2013年度への受注時期のずれ込みなどの影響もあり、連結受注高は台湾や韓国で大型受注を獲得した前年度を下回る8,953億円となりました。

連結売上高は、火力発電プラントの売上が増加したことなどにより、前年度を上回る9,887億円となりましたが、原子力発電プラントの再稼働遅延などによる影響で、営業利益は前年度を下回る889億円となりました。

2013年度は、連結受注高1兆1,700億円、連結売上高1兆900億円、営業利益950億円を計画しています。

中長期の成長に向けた取り組み

火力発電分野では、環境負荷の低いガス火力や、老朽化した

石炭火力の更新需要など、新興国を中心とした新規建設の需要が引き続き拡大しています。また、米国をはじめとするシェールガスの開発進展や、巨大ガス田の発見などにより、天然ガスの価格は世界的に低下する見込みであり、GTCC(ガスタービンコンバインドサイクル)が各国で拡大していく見込みです。

激化する事業環境のなか、グローバルな調達・生産の拡大を通じて原価低減、為替変動リスク軽減に取り組むとともに、2014年1月1日に予定している(株)日立製作所との火力事業統合により、世界的に旺盛な火力発電システムの需要に、高い技術力と品質、信頼性で応え、グローバル競争を勝ち抜いていきます。

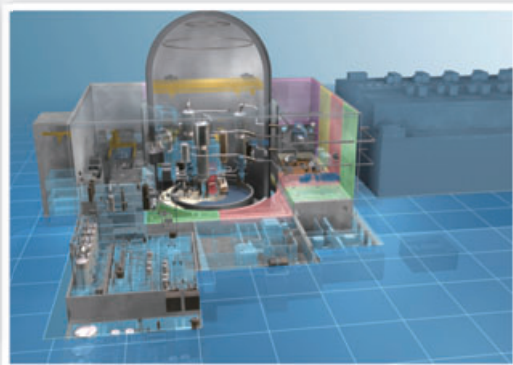
また、洋上風車についても開発を加速し、英国、ドイツを中心とした北海沿岸諸国に焦点を絞り、事業展開していきます。

原子力事業は、2014年度には海外新設プラント等の受注で4,000億円、中長期的には現在の国内ビジネスモデルを海外に展開し6,000億円へと伸ばさせる計画です。



▲ バイトンⅢ火力発電所

▼ ATMEA1



▲ M501J形ガスタービン

原動機事業本部長
和仁 正文



原子力事業本部長
正森 滋郎



SWOT分析表

<ul style="list-style-type: none"> □ ほぼ全ての発電方式に対応可能 □ (火力) 高効率・高出力・省エネ □ (原子力) 世界最高水準の安全技術 	<p>S</p> <p>強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ (火力) 海外大手競合と比べて低い収益性 □ (原子力) 海外EPC※未経験 ※ EPC: 設計・調達・建設 	<p>W</p> <p>弱み</p>
<ul style="list-style-type: none"> □ (火力・再生可能エネルギー) 環境意識の高まりを背景に、効率的な火力発電設備や風力発電等のニーズが拡大 □ (原子力) エネルギー需要が旺盛な新興国でニーズ拡大 	<p>O</p> <p>機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ (火力) 海外では大手競合2社が圧倒的な存在感 □ (原子力) 世界市場における韓国・ロシアメーカーの存在感の増大 	<p>T</p> <p>脅威</p>

主要プロジェクト

発表時期	納入時期	プロジェクト
2013年 6月	2016年	海外初のWJP※工事を米国で連続受注 ※ Water Jet Peening: 原子炉容器異材継手部の応力腐食割れ予防
2013年 5月	2023年	日本・トルコ政府間の協力合意文書締結 ATMEA1を前提に日本が優先交渉権を獲得
2013年 2月	2014~2015年	サウジアラビア電力会社向け 超臨界圧蒸気タービン発電機4基などを受注(総出力280万kW)
2012年12月	2015年	タイ向け GTCC発電所建設プロジェクトを受注
2012年12月	—	航空機用エンジンメーカーP&Wの中小型ガスタービン事業ユニットPWPSを買収
2012年11月	—	(株)日立製作所と火力発電分野での事業統合に基本合意
2012年 3月	2014年	最新鋭M501J形ガスタービンを韓国向けに10台連続受注

具体的には、国内では2013年7月に施行された新規基準に対応し、既設プラントの再稼働、青森県六ヶ所村の再処理工場における原燃サイクル推進及び東京電力(株)福島第一原子力発電所の安定収束や、老朽化プラントの廃止措置などで全面的に電力会社を支援します。海外では新興国向けに世界戦略炉ATMEA1のグローバル展開を加速するとともに、国内工事で蓄積した先進技術を武器にアライアンスでアフターサービス市場に本格参入します。

これらを着実に取り組むことにより、世界をリードする「原子力総合カンパニー」として、安全性向上、電力安定供給、地球温暖化対策、エネルギーセキュリティー確保の4つの使命を果たしていきます。

以上のような各事業の施策によって、当部門は2014年度に、連結受注高1兆4,200億円、連結売上高1兆3,200億円、営業利益1,430億円の達成を目指します。



▲ 東北電力(株)仙台火力発電所4号機

T O P I C S

世界初油圧ドライブトレインを採用した大型風力発電設備の試運転開始

2013年1月、これまでのギアドライブに代えて油圧ドライブトレインを採用した世界初の大型風力発電設備の試験運転を横浜製作所内で開始しました。この運転成果を踏まえ、7,000kW級の洋上風力発電設備の開発を加速し、2013年に英国において陸上での実証機の据付・運転を開始します。

風車の大型化、信頼性向上を狙いとして、2010年に買収した英国のベンチャー企業、アルテミス社(Artemis Intelligent Power, Ltd.)の油圧デジタル制御技術をベースに、新型油圧ドライブトレインを実用化しました。

